

平成 29 年(2017 年)11 月 6 日

保護者の皆様

豊能町立吉川小学校
校長 松田 寿春

「平成 29 年度全国学力・学習状況調査」結果および今後の取組みについて

秋も深まってまいりました。保護者の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は、本校の教育推進にご理解・ご協力いただきありがとうございます。

さて、平成 29 年 4 月に本校 6 年生に実施いたしました「平成 29 年度全国学力・学習状況調査」の概況について、分析結果をまとめましたので、お知らせいたします。なお調査問題は HP 等でご覧いただけます。

【概要として】

今回の結果を通して、全国平均・大阪府平均との比較や過去五年間との比較だけに目を向けず、児童の課題は何か、どんな力をつけたらよいかを考え、児童の抱える課題に正対した取組みを進めていきたいと思えます。

全体的に本校の結果は、国語 A（主として知識）・国語 B（主として活用）は全国平均を下回りました。算数 A（主として知識）は全国平均を下回り、算数 B（主として活用）は上回りました。国語・算数共に、基礎的な学力・知識に課題がみられます。算数は、活用問題では力を発揮したと言えます。

今回の分析から見えてくることは、国語領域の「読む」「書く」「読書」（特に家での読書）などに課題が見られました。他の人の考えや思いを聞き取り、文章を読み説明を理解したり心情に共感したりする基礎は国語で学びます。「書く」ことにより、自分の考えを伝えたり自身の思いを表現したりします。言語的な力は、身につけたいもっとも大切な学力の一つといえます。「読書」は「読んで書く」とも「書くために読む」とも言われ、言語活動は最も大切な活動の一つと言えます。結果を受け、言語活動の取組みを進めると共に、読書に対する関心を高め読書の習慣を身につけるよう取り組んでいきたいと思えます。

家庭学習については、家で宿題をすることについては、ほとんどの児童が肯定的な回答をしています。しかし分析結果から、家庭で、TV・DVD等の時間を少し減らすこと、家で読書する習慣を身につけることが大切だと思います。家庭でもこれらについてお子さんと話し合いの機会をもつていただき、ご協力をお願いいたします。

【国語の結果から】（○…プラス傾向の力 ●さらにつけたい力、◆考察）

◆「記述式問題」の正答率が低く、「文章を読み取り、そこから必要な内容を自ら取り出して文章を書く」ことに顕著な課題が見られる。

◆「学年配当漢字を正しく書く・読む」に課題が見られる。

《国語 A》「基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題」

○「読む能力」について全国平均と同程度の結果である。

●「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「言語についての知識・理解・技能」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に課題が見られる。

●「目的や意図に応じて内容の中心を明確にして、詳しく書く」、「目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む」、「学年配当漢字を正しく書く」に課題が見られる。

◆基礎基本としての漢字学習には十分取り組む必要がある。

◆「話す・聞く・書く」「言語」に、基礎から再度学習をし直す必要があるといえる。

《国語 A「主として知識」で課題が見られた問題例》

- ・問題 1：「学級文集のタイトルを決める話し合いにおける報告の説明として適切なものを選択する」
- ・問題 2-1：「どのような内容を書いているのか、書かれている内容の説明として適切なものを選択する」
- ・問題 2-2：「手紙の構成を理解し、後付けを書く」。
- ・問題 3：「資料から、中心に読むとよい段落をそれぞれ選択する」
- ・問題 7：「学年別配当漢字表に示されている漢字を正しく書く、読む」。

《国語B》「基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題」の課題

- 「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える」、「目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える」は全国平均を上回っている。
- 「記述式問題」の正答率が低く、「目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話す」、「物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる」に特に課題が見られる。
- ◆文章や物語を読み取り、自分の考えをまとめる学習を、基礎から取り組む必要がある。
- ◆話す・聞く、書く、言語についての理解に課題があるため、日常的に読む（読書）・書く練習、などの日々の繰り返し習熟指導が必要と言える。また、いくつかの条件を重ね合わせて複合的に考える問題への取り組みも必要と言える。

《国語B「活用問題」で課題が見られた問題例》

- ・問題 1-3：「スピーチメモとグループでの話し合いで出された意見を書く」
- ・問題 3-3：「取り上げた言葉や文を基に、登場人物が考えたわけをまとめて書く」

【算数の結果から】（○…プラス傾向の力 ●さらにつけたい力 ◆考察）

- ◆「図形領域」、「基準量と割合を基に、比較量を判断し、その理由を説明する」等に課題が見られた。

《算数A》「主として知識」の課題

- 「数量関係」は、全国平均と同程度である。
- 「数と計算」、「量と測定」、「数量や図形についての技能・知識・理解」の領域、「1より小さい小数をかける乗法と数量関係」、「小数と整数の加法計算、加法と乗法の混合した計算」、「最小公倍数をみつける」など計算・数量関係領域に課題が見られる。
- ◆「基礎的・基本的な知識・技能」の習熟に再度取り組む必要がある。

《算数A「主として知識」で課題が見られた問題例》

- ・問題 5：「高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係」
- ・問題 6：「正五角形は、5つの合同な二等辺三角形で構成」

《算数B》「基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題」の課題

- 「示された考えを基に数量関係を図に表現する」、「二つの数量関係を一般化して捉え、そのきまりを記述する」など、活用的な問題で、全国平均を上回る結果である。
- 「図形領域」、「身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断しその理由を記述する」に課題が見られた。
- ◆「基礎的・基本的な知識・技能」の習熟に再度取り組む必要があるが、「数学的な思考」や「活用する力」に全国平均を上回る力があるので、力のある領域面は伸ばしていきたい。

《算数B「活用問題」で課題が見られた問題例》

- ・問題 5-2：「与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、最大の満月の直径に近い硬貨を選び、選んだわけを書く」

【児童質問紙から】

- 肯定的評価が全国平均よりプラス傾向 ●肯定的評価が全国平均よりマイナス傾向、考察は「今後の取り組み」にまとめて表記

①学習・学習意欲に関して

- 「国語の授業の内容はよくわかりますか」と「読書は好きですか」は、全国平均と同等。
- 「国語の勉強は好きですか」、「国語の勉強は大切だと思いますか」、「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしていますか」は全国平均を下回る結果である。

- 「算数の勉強は好きですか」、「算数の勉強は大切だと思いますか」、「算数の授業内容はよく分かりますか」は全国平均を下回る結果である。
- 「総合的な学習では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」は全国平均を下回る結果である。

②学校生活について

- 「友達と話し合うとき、友だちの考えを受け止めて、自分の考えをもつことができている」「学級会などの話し合い活動で、自分と異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか」、「学校で、友だちに会うのは楽しいと思いますか」は全国平均を上回っている。
- 「友だちと話し合うとき、友達の意見を最後まで聞くことができますか」、「学校へ行くのが楽しい」が全国平均を下回っている。

③自分自身のことについて

- 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことはありますか」は上回っている。
- 「学校のきまりを守っていますか」、「友達との約束を守っていますか」、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」は、全国平均と同等である。
- 「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」、「自分には、よいところがあると思いますか」、「人が困っているときは、進んで助けていますか」が全国平均を下回っている。

④家庭での学習意欲等について

- 「家で、学校の宿題をする」は、ほぼ全児童が宿題をすると回答し、「家で、予習する」「家で、復習をする」は、全国平均とほぼ同等である。
- 「学校の授業以外に、普段、1日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか」、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか」、「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」は、全国平均より低い傾向にある。
- 「学校の授業以外に、普段、1日当たりどのくらいの時間、読書をしますか」は、特に全国平均を大きく下回り、本校児童の課題が見られた。
- 「1日どのくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしていますか」「1日どのくらいの時間、テレビゲーム（PCゲーム、携帯電話・スマートフォンを使ったゲーム）をしますか」、「1日どのくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」は、全国平均より高い（時間が多い）傾向にある。

⑤家庭での生活等について

- 「朝食を毎日食べていますか」、「家の人と学校での出来事について話をしますか」、「家の人と将来のことについて話すことがありますか」、「家の人は、授業参観や運動会などの学校行事に来ますか」は、全国平均を上回っている。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」は、全国平均を下回っている。

⑥地域との関わり等について

- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」、「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」は全国平均同程度である。
- 「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか」は、全国平均を上回っている。

【今後の取り組みについて】

A 学習・学習意欲に関して

授業の内容理解面だけでなく、授業を楽しみ、学ぶ楽しみを感じられる授業を創りだしていかなくてはならないと考えます。

総合的な学習では、自ら主体的に学ぶ学習の進め方や体験学習の大切さを認識して、児童自らが興味関心を持ち意欲的に取り組む授業づくりを研鑽していかなくてはならないと思います。

読書は、ICT化が進んだとしても、人間が情報を得たり思考したり書いたり表現したりする基礎を養う大切な活動です。児童が読書活動を深めていけるように、指導のあり方について研究していきたいと思います。

また、特に「書く」については課題が見られたので、「全ての教育活動において、言語活動を重点においた授業づくりを進める」ことに更に一層取り組んでいきたいと考えます。国語科以外の授業でも、日記、授業や活動における感想文、連絡帳など、日々の学校生活の中で、「自分の考えを書く」「要旨を捉える」「自分の気持ちを表現する」ことに、全教員で「書く」指導法についての研修を積み重ねながら取り組みたいと考えます。

算数領域では、基礎基本の定着を図ること、複雑で複合的な問題を解く意欲や思考力を育てていく必要があると考えています。

B 学校生活について、自分自身のことについて

人権教育を柱に据え、自分の大切さと共に他の人の大切さを認める児童の育成、自分と違う相手を認めることを大切に、児童にとって楽しい学校づくりに取り組んでいかなくてはなりません。

学びの大きな3つの柱の「頭づくり、体づくり、仲間づくり」の取り組みの中でも「仲間づくり（集団づくり）」について重点的に取り組み、児童が安心できる居場所のある学級、学校を目指し、学力向上へつなげていきたいと思ひます。

C 家庭での学習意欲等について

宿題は、ほぼ全員がやっているものの、児童自身が、家で学習したり読書したりすることを子どものうちに身に付けることは、とても大切なことだと考えます。家庭で学習や読書する大切さを伝え、家庭学習や読書の習慣づくりを家庭と連携し、重要課題として取り組んでいきたいと思ひます。

また、TVやDVD等の視聴時間やテレビゲーム・インターネット等の時間がかなり多いことを受け止め、ご家庭で使用時間や使用について約束を決める等、今後のご家庭でのご協力を期待します。

D 家庭での生活等について

児童が朝食を毎日食べていること、ご家庭でお子さんと話をされていること、学校行事に参加して下さっていることに感謝いたします。「同じ時刻に寝る、起きる」など、基本的な生活習慣の安定は、児童の学校での生活や心身の安定のために大切なことです。ご家庭でのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

E 地域との関わり等について

地域の方たちのご支援ご協力のもと、様々な活動を行ってきております。そのため、地域の行事や地域活動に参加したり、地域の方に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがあると答える児童が多くいます。

今後も、地域の方のご支援を賜りながら、本校としてできる地域との連携や地域の方などの授業支援を得て、授業や活動を深めていきたいと思ひます。

調査結果から見えてきた児童の課題に正対した取組みを進めると共に、教職員一同、保護者・地域の皆さんと一緒に子どもたちの健やかな成長を見守り、支えていきたいと考えています。今後とも学校教育活動にご支援、ご協力よろしくお願いいたします。